

中間とりまとめにおいて示された航空分野における主な課題

- ・グローバル化の進展・アジアの急成長に直面するとともに、国内的にも少子高齢化・人口減少が進展し、地方経済が厳しさを増す我が国において、航空が果たすべき役割は何か
 - ・利用者が航空サービスを多様な選択肢の中から利用できるような環境整備をどうすべきか
- という基本的問題意識をもとに、航空分野における主な課題として以下のとおり認識

1) 国際航空需要等の今後の新たな需要への的確な対応

- ① 空港における的確な対応
- ② 航空管制における的確な対応
- ③ 航空協定等の多様な国際的枠組みの構築
- ④ 観光施策と連携した需要の取り込み

第9回・第10回
において議論

2) 競争の激化に対応した事業者による円滑かつ信頼のおけるサービス提供の確保

- ① 事業者の競争力の強化（公租公課等のあり方）
- ② 航空利用者の安全・安心の確保
- ③ 事業者間の連携や他モードとの連携の促進

3) 「整備」から「運営」へのシフトに対応した今後の空港経営

▶ 空港経営改革の円滑な実現

4) 今後の地方航空ネットワークのあり方

- ### 5) その他の課題
- ▶ ① 航空分野における今後の環境対策の検討
 - ② 航空分野におけるインフラ海外展開の推進

中間とりまとめ 第11回基本政策部会関係抜粋

2.2 競争の激化に対応した事業者による円滑かつ信頼のおけるサービス提供の確保に向けた課題

2.2.2 航空利用者の安全・安心の確保

また、グローバル化の進展とともに多様なサービスが登場し、競争が激化する中であっても、利用者の安全・安心の確保は航空・空港運営の大前提である。利用者を取り巻く安全上のリスクを低減するため、事業の効率性や規制の程度にも配慮しながら、リスクマネジメントによる安全性向上、災害対策や維持管理・更新対策、保安対策など必要なあらゆる方策を迅速かつ着実に進めていかなければならない。

2.2.3 事業者間の連携や他モードとの連携の促進

さらに、非常時への対応や利用者の利便性向上の観点からの事業者間の連携や他モードとの連携の促進は、航空行政の使命に照らしても重要なテーマである。航空利用者本位のサービスが臨機応変に提供されるよう、航空・空港同士や他の交通・観光事業者、行政まで含めた望ましい連携のあり方を今後模索していくべきである。



これらに加え、我が国における乗員等の養成・確保について議論